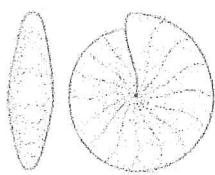


貨幣石(かへいせき)

貨幣石とは

貨幣石とは、約 5,000 万年前の暖かい海に生きていた殻を持つ生き物が化石になったものです。この生き物は底生有孔虫（ていせいゆうこうちゅう）と呼ばれるもので、現在の西表島の海岸で「星砂」として知られているものと同じ仲間で、石灰質の殻を持ちます。日本では貨幣石の仲間が天草諸島のほか、小笠原諸島、八重山諸島、沖縄本島で見つかっています。

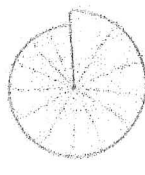
天草の貨幣石はヌムリテスと呼ばれる仲間で、天草地域では 3 種が発見されています。一つは、学名をヌムリテス・アマクセンシス (*Nummulites amakusensis* Yabe and Hanzawa) といいます。この化石がヌムリテスとして日本で最初(1925 年)に報告されたものです。宮野河内地区越地のほか、牛深町、御所浦町、鹿児島県獅子島でも見つかっています。大きさや形は、直径 2～14 mm の薄くした“おはじき”の様な形をしています。ヌムリテスには同種でも殻が大きく成長する微球（びきゅう）型と殻の小さい顕球（けんきゅう）型の 2 つの形態があることが知られており、アマクセンシスは微球型で直径 14 mm、顕球型で 4 mm ほどです（図 4 を参照）。



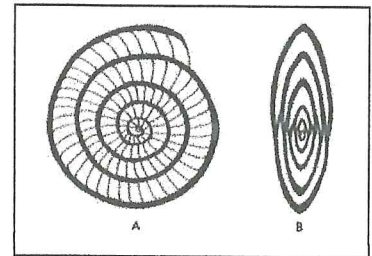
アマクセンシス
の化石の外形



ホンゴエンシス
の化石の外形



ウシブケンシス
の化石の外形



ヌムリテス・アマクセンシス
の化石の断面(A・B)
岩崎(1997)*より引用

天草の貨幣石のもう一つは、学名をヌムリテス・ホンゴエンシス (*Nummulites hongoensis* Hanzawa) といいます。ホンゴエンシスは、微球型で直径 4 mm、顕球型で 2.5 mm ほどと小型で、宮野河内地区本郷ではアマクセンシスと混じって見つかるほか、二浦町早浦、河浦町八久保峠などから知られています。

天草の貨幣石の三つは、ヌムリテス・ウシブケンシス (*Nummulites ushibukensis* Hanzawa and Urata) といいます。ウシブケンシスは、天草で見つかる種で最も小型で、微球型で直径 4 mm、顕球型で 2 mm、下須島東岸と牛深町明石岬で見つかっています。

天草の貨幣石はあまり大きくありませんが、外国で見つかる物は直径 10 cm 近くになる種類があります。ヌムリテスは生息していた時代が新生代始新世（ししんせい）（5,600 万～3,390 万年前）に限られているため、産出する地層の年代を知る手がかりとなる示準化石となっています。

熊本県の天然記念物として昭和 39（1964）年 3 月 10 月に指定されました。これはこ貨幣石が持つ学術的（古生物学的）重要性、①化石の日本における限定的な分布、②示準化石としての利用価値などの理由から判断されたと言われています。

※岩崎泰顕（1997）：天草の貨幣石（カヘイセキ）．熊本地学会（114）：2-8.

種 名	形 態	大きさ(mm)	厚さ(mm)	形態的特徴と産出状況
ヌムリテス・アマクセンシス	顕球型	2.5～4	0.6	天草産の 3 種では最も大型。御所浦町竹島で微球型が多い。
<i>Nummulites amakusensis</i>	微球型	14	2	
ヌムリテス・ホンゴエンシス	顕球型	2.5	1	殻の膨らみは天草産の 3 種では最も強い。早浦に多産する。
<i>Nummulites hongoensis</i>	微球型	4	2	
ヌムリテス・ウシブケンシス	顕球型	2.5	1	下須島東岸に多産。明石の礫層にディスコシクリナと共に共存する。
<i>Nummulites ushibukensis</i>	微球型	3.5～4	2	

貨幣石(ヌムリテス)の観察

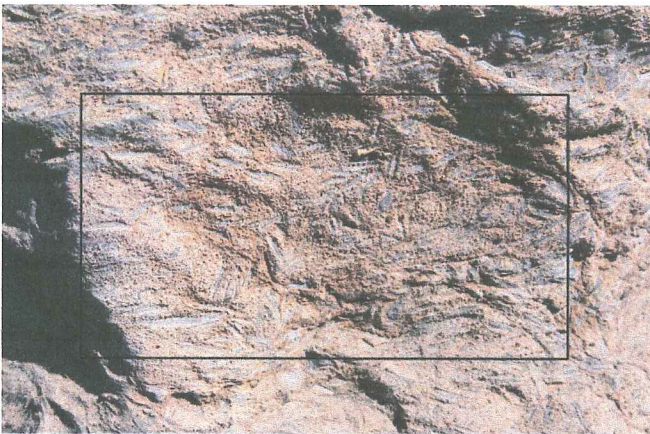


図1. 展示岩石に見られるヌムリテス化石。四角の化石部分は図2を参照。

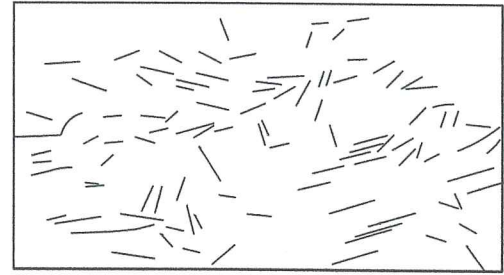


図2. 展示岩石に見られるヌムリテスの中化石の位置を示したもの。

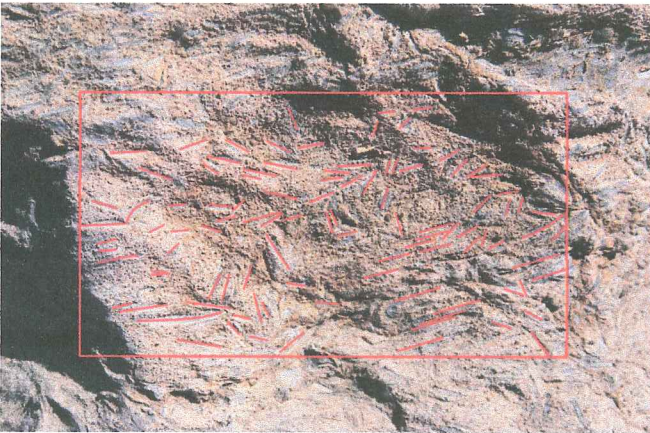


図3. 展示岩石に見られるヌムリテス化石。四角囲みの中の赤色部分が化石。



図4. アマクセンシスの2つの形態
微球型と顕球型

参考とする化石

岩石（化石）：琉球石灰岩（底生有孔虫“オパキュリナ”）
時代：第四紀更新世（約4～10万年前）
場所：鹿児島県大島郡喜界島（きかいじま）

化石：岩石の表面に見える植物の種に見えるものが底生有孔虫“オパキュリナ”の化石です。この岩石中に多くの“オパキュリナ”が積み重なる様に入っているのが岩石の断面にでも観察できます。
展示中の宮野河内の岩石には、貨幣石（ヌムリテス）が“オパキュリナ”のような状態で岩石に入っていると考えられますが、1匹の大きさが小さく薄く、岩石と一体になってしまっていることで区別しにくくなっています。

